



読み聞かせで心の根っこを大きく育てよう



「はじめてのおつかい」を紹介する上田先生。TVの「はじめてのおつかい」もこの本がヒントで生まれた。

1月23日(土) おおひらこども園で「絵本の与え方・絵本と子ども」と題して福音館の上田紀人氏をお迎えしての講演会がありました。

心を育てるための3大栄養素は「愛情」「笑顔」「ことばの語りかけ」だということです。大好きな人が自分に本を読んでくれるのは子どもにとって何よりも嬉しいもの。絵本の読み聞かせは心の栄養素がたっぷり。一日にたった5分の読み聞かせで子どもの心の根っこ(自尊感情)は大きく強く育つのです。ぜひ、お子さんにゆっくりと絵本を読んであげてください。



熱心に講座に聞き入る参加者の皆さん
男性の参加が嬉しいですね。

絵本の与え方 5カ条

1. 読み方⇒ 書いてあることを書いてある通りに読む
2. 肉声で⇒ テレビやビデオは抱っこしてくれません
3. 心をこめて⇒ ゆっくり読むと優しい声になる
4. 感想は聞かない⇒ 子どもの言動を聞いているとどこに感動したかがわかる
5. 毎日読んで⇒ 自分は大切な存在だということが自覚できる 「聞く力」がつく

講演の中で紹介していただいた本

「こすずめのぼうけん」 安心できると挑戦できる、自立する
「はじめてのおつかい」 女の子の気持ちが絵によく表れる
「きんぎょがにげた」 言葉が話せなくても絵を読む
「スーホの白い馬」 絵が物や情景を教えてくれる、主人公に同化、感動が心を丈夫に、正義を愛する気持ちをもつ
「しろいうさぎとくろいうさぎ」 大人も楽しめる
「よくきたね」 おいでおいでは魔法の言葉

「抱っこ」も子どもたちの好きなこと。安心できる嬉しい瞬間なのでしょう。睦岡小では「親子でハグ週間」を設けているそうです。とてもステキな取り組みですね。ハグと絵本の読み聞かせでよりよい親子関係を築いてください。

※子どもはくり返しが好き、同じ本を何度でも聞きたがる。

リレーコラム 我が家の子育て

山武北小学校教頭 杉村 哲

「今日はどじょうを捕まえたよ。」「おばあちゃんとよもぎ団子を作ったよ。おいしいから食べて。」子どもたちが幼少の頃、仕事を終えて帰宅すると、毎日このような会話をしていました。

まだ幼かった子ども達も、今は大学生と高校生になり、親の手を少しずつ離れようとしています。

今回このような機会をいただき「これが子育てかな。」と思われるかもしれませんが、ご一読くだされば幸いです。



一 地域の中のびのびと育てる

子ども達が幼少のころは、なるべく屋外に連れて行くようにしました。よく行った所は、家から五分程歩いた所にある公園です。近所には同年代の子どもがあまりいませんでしたが、公園には周辺から幼い子ども達が集まっています。ブランコや滑り台の順番待ち、砂場での遊び道具の貸し借り等を通して、友達との関わりを広げ、家庭内では学ぶことのできない社会性を養うことができました。さらに、先輩のお父さん・お母さんから、子どもが突然かかる病気や対処方法などの貴重な情報を得ることもできました。また、公園に行かないときは、家の周りに残っていた自然の中のびのびと遊ばせました。先に紹介したように、小川でドジョウや小魚を捕まえたり、空き地でヨモギの葉を摘んでヨモギ団子を作ったりしました。この「自然教室」の中で、子ども達の探究心が養われていったように思います。

二 持てる力を精一杯発揮する

子ども達が小学校に入学すると、当時勤務していた特別支援学校の運動会や音楽発表会に連れて行くようになりました。肢体不自由や視覚障害を有する同年代の子ども達が車いすでトラックを走ったり、様々な楽器を演奏したりする様子を見学しました。上肢にまひのある子どもが懸命に車いすをこぐ姿や、全盲の子どもが互いの息遣いを聞きな

がら合奏している姿から、子ども達は、自分の持てる力を充分に発揮するために努力を惜しまないことの大切さを実感したようです。子ども達が中学生になった頃、家で教材を作っていると、興味深そうに尋ねるようになってきました。そんな時は、学習内容や使い方を伝えるようにしました。点字や操作しやすいように取っ手をつけた教具を目の当たりにして、学ぶ方法を工夫しながら勉強していることを知り、向上心を持って学ぶことの大切さを感じたようでした。

三 傾聴・承認で意欲を引き出す

中学生の頃は、学校から帰ると、荷物を置きっぱなしにして一休みしている姿を見かけることが増えました。そんな時は、「片づけることが先!」と言葉をかけることの繰り返しでした。それどころか、「今は〇〇する時だね」と、頭ごなしに子ども達の行動を決めつけていました。ある時、子ども達から「息が抜けない」ポツリと一言。それを聞いて、自分達親の考えを一方的に押し付けていることに気づきました。一方的な押し付けでは、一時的に行動することはできても、自ら目標を定めて行動する力は育ちません。そこで、頭ごなしに言葉をかけず、子どもの行動目標を引き出したり、行動を認めたりするような言葉をかけるように心がけました。すると次第に自ら目標を設定し、達成に向けた計画を立てるようになりました。自分がこうしようと考えたことを親が認めてくれるという安心感や、頑張ろうとしている自分を見守り励ましてくれるという信頼感が子ども達の意欲を高めることにつながったのだと思います。



振り返ると、いつも手探りでの子育てだったように思います。何をしても良いか分からない時は、すぐに周りの人に相談し、助けてもらいました。子育てには「正解」なんてありません。その子に合わせた育て方があると思います。育て方に迷った時は、周りの人に相談することが大切です。皆さん、子育てを楽しんでください。